

行雲流水

No.204 令和4年4月19日発行

いんとく
陰徳を積む

校長 寒河江 正人

生徒諸君は、**目立たない、気付かれない**ところでも「**地道な働き**」ができるか？

「**陰徳**」とは、

何も見返りを求めずに、誰かが喜ぶかもしれない「何気なくおこなった良い行動」が、めぐりめぐって、いずれ自分に戻ってくる「徳」(恵み・恩恵)のことをいう。

ポイントは、「**見返りを求めない**」と「**何気なく、さらりとおこなう**」ということ。
めぐってくるであろう「自分の利益」を予測して、打算的におこなった良い行動は、「陰徳」にはならないという。

つまり、「**完全なボランティア**」である。

たとえば、

- 「一人では大変そうだなと気付いたら、その人の仕事を手伝う」とか、
- 「配付されたプリントなどが散らばっていたら、そろえる」とか、
- 「教室の机やイスの並びが乱れていたら、整理整頓する」とか、
- 「ストローやゴミが落ちていたら、拾って捨てておく」とか。

ちょっとした「**お手伝い**」、ちょっとした「**気配り・気づかい**」でいい。

誰も気付かない、誰も見ていない、それでもいい。

「**見返りは、求めない**」、そして「**何気なく、さらりとおこなう**」。

コツは、「**意気込まない**」「**楽しんでやる**」「**気軽に続ける**」こと。

これが肝心。

きっと、

「**気分が軽くなる**」「**人目を気にしなくなる**」「**視野が広がる**」「**自分を好きになれる**」。

「**陰**」が増えれば、「**陽**」も増える。

「**目立たないところでも働ける人**」は、次第に**信頼が深まり、人望は高まるもの**だ。